



# 新施設建設説明会へのべ56名が参加！

「他の住民の方にも真意を伝えて」「自分たちも伝えなきゃ」

新施設建設説明会には3回でのべ56名の方に参加いただきありがとうございました。

第1回(4/26) ... AJUのめざす施設の概要

第2回(5/10) ... 精神障害とは / 名古屋市精神保健福祉センター奥田幸子さん(精神科医)

第3回(5/17) ... みなさんから寄せられた声に心えて

共感の拍手に包まれた第3回説明会。今回は第3回説明会の様子を紹介させていただきます。

## 第3回説明会でみなさんから寄せられた声

今日初めて参加した。施設はどこにできるのか、教えて欲しい。

若柳町と松風町の2箇所。松風町の土地だけでは、法律に基づくと建ぺい率や容積率で無理だった。そこへ、教会よりこの場所でもよいと言われ、教会の土地にある今の建物を建て直すことになった。

若柳町の施設は、1階は団体の事務所、2階は障害者ヘルパーの事務所、3階は障害者就労移行の施設。就労移行というのは一般企業に勤める前段階の施設で、定員は24名。当初は少人数から始めて、精神障害が多いと考える。身体については下橋町のわだちコンピュータハウスがあり、知的は恵方温泉の跡のピア名古屋がある。わだちもピアも精神の人も利用しているが、数は少ない。だから若柳町の新しい施設は精神の人が多く利用する予定。

ここは一般企業に勤めていける人が、就職先を見つけるために利用する。なぜ必要かという、病院からいきなり就職するのは難しいから。当初は半日の仕事から始め、半日の仕事を続けて自信がついたら、段階をおって就職していく。何か事件を起こすという事は考えにくい。

若柳町の施設は通って来るところ。9:00~17:00が基本で、17:00以降はいない。反対ポスターには「入所施設反対」とあるが、正しくは通所する施設です。



今までピア名古屋に精神の人も通所していて問題はなかったのに、今回どうして問題になるのか不思議である。施設を理解していないからでしょうか。

強く反対をいう人の多くは門前払い、聞く耳を持たない状態。名古屋市内に聞くと、また全国どこでも、施設を作るときは反対が起きるらしい。

サマリアの東隣に住むOさん。介護保険を使い106歳でひとり暮らし。市社協の副会長に話したら、「106歳でひとり暮らしというのは、全国でもここだけ。宝物だよ」とのこと。今は老人ホームに入れられる時代。名古屋市の介護保険課長の話だと「老人ホームに行きたい人はいない」という。

障害者の制度と介護保険の制度を併用すれば地域で生活できる。AJUはそういうことをめざしている。県営恵方町住宅には24戸のシルバー住宅があり、何かあったらAJUがお手伝いしている。

反対しているから作れないのですよね。他の事業でも影響を受けているのでしょうか。

一番影響を受けているのは、そういうものを1日も早く求めている障害者ですよね。

そういう人(障害者)は声が出せないので、すよね。

残念なことに、賛成という声がかたがた出にくい雰囲気であるということは事実です。町内の役員全員が反対するのはなぜでしょうか。

あの時期は選挙戦を控えていたから。反対してしまったら今さら後に引けない...と思っているのでは？

「公職者が動くのは選挙運動ではないか」「野放しにするつもりか」という声があったのは事実。コメントできず、「はい、はい」と返すことしかできなかった。昭和区全体にはマイナスと個人的には思ったが...



反対ではないが、合意が必要と考える。反対運動については、「精神病」「うつ病」という言葉が一人歩きしていると思う。一昨年身近で自殺した人がいる。職場関係の働き盛りの人だった。必要としている人がいるのなら、丁寧にわかってもらうことが必要ではないか。

「障害」という言葉が一人歩きして、本当のことが見えなくなっている。粘り強くやるしかない。心の病が増えていて、こういう施設が必要となる。今や、交通バリアフリーとか建物のバリアフリーといわれるが、現実にはそういう実態がある。粘り強く合意を得る努力が必要。決して見切り発車しないように。

付帯決議が付いたので、町内会の役員の方たちの了解をいただかなければ、作れなくなったということとは事実です。それも我々は重く受けとめておりますし、さきほどの方からご指摘いただいたように話し合いの場を持ちたいということで、実際に何度も申し入れはしたが、「役員全員反対で、ええわ」といわれた。だが説明に伺いたいと考えている。支援の必要な人がいるのは事実。前回の説明会で、うつ病で息子さんを亡くされた方から「奥田先生と10年前に出会っていたらよかった」「わしは頑張れ頑張れと励まして失敗した」という話があった。

2月の説明会で名古屋市の話聞いたが、煮詰めた話はなかった。今日は違った。みなさんの真意を町内会長に話してはどうか。

町内会長に申し入れます。みなさんからもそういう声を出していただけるとありがたい。

ここにできる施設が3階建てだとか、ヘルパーが常駐するとか、通所の方だけが利用するとか、そういう説明は全くなくて、今日まで知らなかった。だから、そういうお話をされるとよいのではないかなと思う。

正確な情報がないから間違った判断をすることに繋がる。早速伝えさせてもらいます。

話を聞かせていただいて、立場は対等だと思う。障害に関係なく人間として。やっぱりいつ障害になるかわからないということがあり、健全者っていうのは何でしょうって思う。私自身も性格的にベストじゃないし、不誠実な面もありますしね、病院も通いますし。どこに病気として現れるか、障害が残るか分からない。年をとればなおのこと。ですから、障害者のことを知らない不安になる。病気で何でも現実を知らない不安になるし、病気を持っていても表に現れなければわからないもの。

今聞いたアルコール依存の体験談は、どこかの家庭でもあるかも知れない。気もちが安らかに生きられる社会にしたい。障害者の方から説明してもらおうのが私にしては心苦しいぐらい。理解し合える場がいっぱいあればいいんじゃないかなと思う。

私たちはどちらかというと、障害者というより施設の責任者として、今日はお話させていただきました。A J U は障害者が運営し、障害者の気もちになってやっているところが他の施設とは違うかもしれない。

質問があります。施設を作ることに住民の許可が必要なのですか。

法律的には必要ではありません。付帯決議の関係もありますが、今後活動していく上で住民のみなさんの理解は不可欠と考えます。

近所に何棟かの住宅が建つ。どういう人が入るのが分からないが、「ここはダメだ」と私たちは言えない。同じようにこういう福祉の建物が建つのに、なぜ住民の許可を得なければいけないだろうかと、素朴な疑問が湧いてきた。

私は障害者の親で、息子は 10 歳で病気になって後遺症が残り、27 年です。25 年間は、私がうちで面倒をみていて、いろんな所を探したんですが、A J U に会ってから子どもが喜んで...、私は本当に感謝しています。

反対ポスターを見た時には、本当に今でも涙が出てくるくらい、何でこういうポスターが各家にあるんだろうかと思った。障害を持った子がこういう所にはいけないような言い方をされたんですよ。

私たちは本当に、一生懸命生きることにはただ専念しているんですね。親も子も一生懸命にそうやって生きていた。ピア名古屋と出会って感謝しかない。何かという時に私が頼れる所は A J U だというふうに思っていて生きて、すごく心強い。

実際に A J U にお世話になっているし、力になってもらって、今現在がある。精神だろうが知的だろうが、身体障害だろうが、みんなと同じように仲良く頑張っているのは、これは人間のモットー。神様が平等に与えてくださっている。私は特にそういうみんなと仲良くできる所を与えたいといつも思っています。



こういうところがないといつかつぶれる。母親を介護した体験からもそう思う。駆け込み寺的なところ。本当に親身になって、心から人のできることへのお手伝いをさせていただくところ。そういうところがあってなぜおかしいのかと、なぜ反対されるのかというふうに思う。

人間生きていけばいつかは衰えるし、誰でも障害を持つ。誰でも支えてもらえないと生きていけない。

住民の方々が理解してくれるよう、A J U の職員だけに任せるのではなく、私たちも井戸端会議でも話したいと思う。

私の周りでうつ病で自殺した人が 4 人もいます。みんな病院から出てきてすぐに亡くなった。だから、そういう現状もやはり十分に丁寧に話をしながらわかっていただきながら、社会にはこういうところが必要なんだということを伝えたい。

もういっぺん言いますが、本当に A J U の方だけじゃなくって、私が障害者の母親というわけじゃなく、やはり人間としていろんな人に語りかけていくということ、みんなと今日参加された方たちが、みんなが静かに心の中に入れていけるように話ろうと思います。反対の方もいらっしゃるかわかりませんが、みなさんが是非そうしていただくと嬉しいなと思っています。

期待に応えられるように頑張っていきたいと、思います。一番大きな問題は親亡き後の、親が健在の時と同じような仕組みで、本人が生活できる仕組みを作ることが、A J U の一番大きな役割です。その点で頑張っていきたいと思えます。

## アルコール依存の当事者 = リハビリ施設指導員の話 ( 抜粋、第 3 回説明会より )

私はアル中です。ただし飲んでいないアル中です。名古屋 M A C に入って飲まない生き方が始まり、20 年間飲んでいない。私の経験を手短に 10 分くらいお話しします。

5 人兄弟の次男坊で、長男はゲコ、弟たちは普通に酒を飲める。中学から定時制高校を出て、機械メーカーに入社した。独身寮で開かれた入社祝いの席で、1 升瓶の酒が出て、はやし立てられ湯飲みで 2 杯飲み、目がまわり吐いた。私は介抱された。気の弱い私ははやし立てられ、苦手な歌を歌った。お酒を飲んだら歌って踊れた。初めての酒との出会いは、まずい、もどした、飲みたくない、という思い。しかし職場では酒はつきもの。酒の飲めない男はろくなもんじゃないという風潮。飲まされてはもどしたが、おつき合いの酒ができないとまずいので覚えた。

問題は飲み過ぎて調子が悪いということ。なぜ飲み過ぎるのか。

お酒を飲むと会話がスムーズ、友達ができて、酔いが好きになった。結婚した。

お酒をやめようというという思いと、体調が戻ってまた飲んで体調を壊すの繰り返しだった。不安と手の震えが、お酒を飲むと止まる。

親兄弟には「なぜ飲み過ぎるのか」と言われた。私は酒が入ると気分が違う。うつ気味なのがお酒でちょうどよくなる。飲まないとい具合が悪いと感じた。いい気持ちになっても途中でやめることができなくなった。自分の意志でコントロールできない。

急性アルコール性肝炎になり内科に入院した。内科治療でよくなってくると「早く仕事をしよう」と 3 ヶ月で退院。しばらくは飲まずにいたが、「1 年くらい飲んでいないからいいじゃないか」とコップ半

分飲んだら調子いい。小瓶 1 本になり、大瓶になり、日本酒になり、自動販売機で飲むようになった。

昔と同じ状態になり、仕事で信用をなくし、ミス多発、約束を破る。精神保健相談員に相談したら「アルコール依存症」と言われ、精神科を紹介された。病院にかかり入院を勧められ 8 ヶ月間入院した。

退院後、仕事に復帰するが 2 ヶ月間眠れない。ワンカップ 1 杯飲んだらすぐひどい状態になった。保健所に相談したら精神病院を紹介され入院するが、入院中の外泊でも飲んでしまった。4 人の子どもがいて、下は 3 歳の女の子。家族は「今度退院したら家を出よう」と相談が進んでいた。自分は今度こそわかってもらえると臨むが、言えない。「1 杯飲んだら言える、分かってもらえる」という思いと、「飲んだら離婚される」という思いの中で葛藤。気の弱い自分は「ここで飲まないで離婚される」と理由づけ、1 杯引っかけってしまった。家庭か、お酒かという中、私は酒をとってしまった。

結果として、飲まないで生きてきた。アルコール依存は飲まずにはいられない病気。孤独では難しく仲間が必要。飲まないで生きていく方法を学ぶところ。A A グループのプログラムでリハビリ。

私の体験を話すと仲間は共感する。私ができるから、みんなもできる。アルコール依存であっても、M A C で飲まずに生きる。私はその一人です。

アル中というと、一般的には「飲んでいるアル中」をイメージされる。「飲んでいないアル中」は目立たない存在。お酒をとったら「普通の人」としてふるまえる。問題はお酒なしにいられない体、お酒を入れると発病する体。ですから一緒に飲まないでいこうということをやっております。

## 精神障害者の施設見学について


5 月に予定していましたが、精神障害者の施設見学についてはただいま調整中です。

決まり次第ご案内を差し上げますのでよろしくお願いたします。

今後さまざまな形でみなさんの疑問の声に答えていきます。電話、ファックス、メールなどで、ご意見、ご要望をお寄せ下さい。

社会福祉法人 A J U 自立の家  
常務理事 山田昭義  
施設準備室 鬼頭義徳、小山秀隆

名古屋市昭和区恵方町 2 - 1 5  
TEL 8 4 1 - 5 5 5 4  
FAX 8 4 1 - 2 2 2 1

 info@aju-cil.com